

2. 本報告書の内容と分析の方法

本研究の「第一次報告書」(令和2年3月)においては、主として各調査票における個別の設問への回答に焦点を絞り、それぞれの結果を整理して具体的に示した。本第二次報告書は、個々の設問への回答のみからでは把握し得ないキャリア教育の実態を浮き彫りにすることを目的として取りまとめたものである。

この目的を達成するため、本第二次報告書の本体(分析編)においては、まず、学校種ごとに(1)第一次報告書に基づく再分析、(2)クロス集計、(3)多変量解析を行い、これらの分析の結果を掲載している。その後、学校種ごとの調査結果の比較検討を通して、小学校・中学校・高等学校のキャリア教育実践の共通点・相違点を明らかにした上で、学校種を縦断的に捉えつつキャリア教育実践についての多変量解析を試み、それらの結果を整理して掲載した。

本第二次報告書では、今回の研究結果で明らかとなった児童生徒の意識の特徴や、今日のキャリア教育推進施策の中心的な課題に基づいて、次の3点のテーマを設定した。

A 【キャリア教育によるカリキュラム・マネジメントの効果】

カリキュラム・マネジメント(具体的な目標設定、評価改善の円滑な取組、学校内外の体制確立等)の視点でキャリア教育に取り組む学校とそうではない学校とでは担任及び児童生徒の意識や実態がどのように異なるのか。

B 【職業に関する体験活動の重要性】

職業に関する体験活動(職場見学、職場体験活動、就業体験活動(インターンシップ))において活動のねらいを明確にし、事前・事後指導を計画的に行い、児童生徒の変容を丁寧に見取っている学校と、そうではない学校とでは、児童生徒の意識にどんな違いが見られるのか。

C 【「キャリア・パスポート」の有用性】

「身に付けさせたい力」を教師が意識している指導及び評価している場合とそうでない場合、「身に付けたい力」を児童生徒が意識して活動及び自己評価している場合、学習意欲や基礎的・汎用的能力どのような影響が見られるのか。

なお、本文に収録し得なかったクロス集計の結果、及び、多変量解析の詳細については巻末の「附表」に掲載している。